



2026年9月15日

各 位

日精エー・エス・ビー機械株式会社

代表取締役社長 藤 原 誠

(東証プライム・コード番号：6284)

〔問 合 せ 先〕

取締役管理本部長 山 本 雄 一

T E L (0267) 23 1560

当社工場用地に関する一部報道について

本日（2026年9月15日）、信濃毎日新聞において「日精ASB工場計画凍結」「プラ容器 需要落ち着き」等の見出しにより、当社が長野県佐久市内で計画しておりました新工場建設計画凍結に関する報道がなされました。

当該記事におきましては、計画凍結の理由が「需要の落ち着き・低迷」にあるかのような記述がございますが、これは当社が発表・説明した事実とは異なる内容となっております。

ステークホルダーの皆様には正確な情報をお伝えするため、足元の事業状況ならびに計画凍結の理由につきまして、以下のとおりご説明申し上げます。

1. 事業・業績状況

記事中では「プラスチック容器の成形機の需要が想定より高まらず」との記述がございますが、**グローバル市場での成形機需要は依然として旺盛であり、業績は堅調に推移しております。**したがって、需要の低下や市場の減速を理由として計画を凍結したという事実等は一切ございません。

当社は、世界的な需要拡大に対応するため、2026年8月6日付「インド子会社における設備投資に関するお知らせ」にて公表しましたとおり**インド工場における大型設備投資をすでに決定し、実行に移しております。**当面は、同拠点での生産能力増強により、旺盛なグローバル需要に対応していく方針です。

2. 国内における建設環境の変化と計画凍結の理由

国内外での成形機需要増に対応すべく、国内新工場の建設検討を進めてまいりました。しかしながら、昨今の建設資材価格の急激な高騰や、人手不足に伴う施工期間の長期化などにより、当初予定していたスケジュールおよび予算内での稼働開始が極めて困難な見通しとなりました。

事業化の確実な目途が不透明なまま建設期限を延長することは、誘致元である佐久市をはじめとする関係各位に対し、多大なご迷惑をお掛けすることになります。企業としての社会的責任を全うし、地域社会ならびに行政との誠実な関係を維持する観点から熟慮を重ねた結果、**本計画を凍結するとともに、用地買い戻しの申し入れを行うに至った次第です。**なお、本件による当期の連結業績への影響はございません。また、今後開示すべき事項が生じた場合には、速やかに公表いたします。

以 上